

U.S. Indicators

発表日: 2025 年 6 月 25 日(水)

通商協議進まず米 6 月 CB 消費者信頼感は予想外の悪化

～景気減速や労働市場軟化すると、トランプ関税の上乗せへの懸念を強める～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

25 年 6 月の C B 消費者信頼感指数は、93.0(前月 98.4 : 改定前 98.0) と市場予想中央値の 99.8 への改善に反して前月比▲5.4 ポイント低下した。現状指数が 129.1 (前月 135.5 : 改定前 135.9) と前月比▲6.4 ポイント低下したほか、期待指数が 69.0 (前月 73.6 : 改定前 72.8) と同▲4.6 ポイントの低下となった。

6 月は、求人の減少などによって労働市場の軟化が続いたとみられ、現状の景気・雇用に対する楽観的な見方が弱まった他、合意への期待感が高まっていた通商協議に目立った進展がみられないため、先行きの見方に修正が入ったとみられる。トランプ関税による物価の上昇懸念や景気の悪化懸念を背景に、消費者が景気や雇用の先行きに対して悲観的な見方を強め、収入に対して楽観的な見方を弱めるなど、全体として 6 月の個人消費の減速を示唆している。

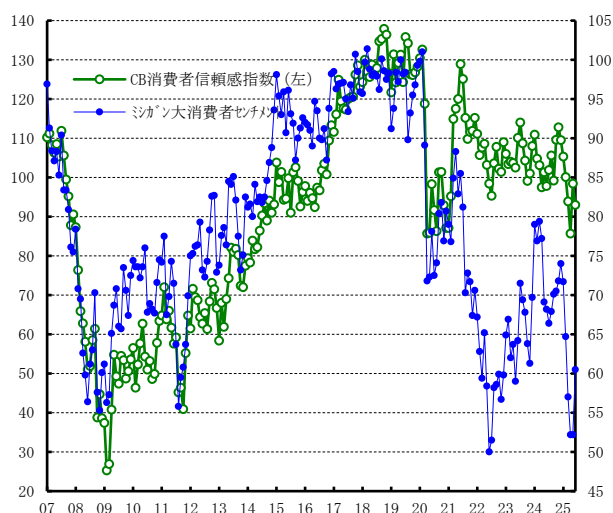
現状指数の構成項目では、「景気」、「雇用」がプラス幅を縮小した。現在の景気に対する判断（「良い」－「悪い」）が+3.7（前月+7.7 : 改定前+7.9）とプラス幅を縮小、現在の景気に対する楽観的な見方を弱めた。また、現在の雇用機会に対する判断（「充分」－「困難」）は+11.1（前月+12.7 : 改定前+13.2）とプラス幅を縮小しており、現在の労働市場に対する楽観的な見方が弱まった。

期待指数の構成項目では、「収入」がプラス幅を縮小した他、「景気」、「雇用」がマイナス幅を拡大した。6 ヶ月後の収入に対する見方（「増加する」－「減少する」）は、+3.9（前月+4.9 : 改定前+4.2）とプラス幅を縮小し、収入に対する楽観的な見方を弱めた。また、6 ヶ月後の景気に対する見方（「良くなる」－「悪くなる」）は、▲7.3（前月▲5.5 : 改定前▲7.0）とマイナス幅を拡大し、景気の先行きに対する悲観的な見方を強めた。さらに、6 ヶ月後の雇用に対する見方（「多くなる」－「少なくなる」）は▲10.5（前月▲7.6 : 改定前▲7.4）とマイナス幅を拡大、雇用の先行きに対する悲観的な見方を強めた。

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

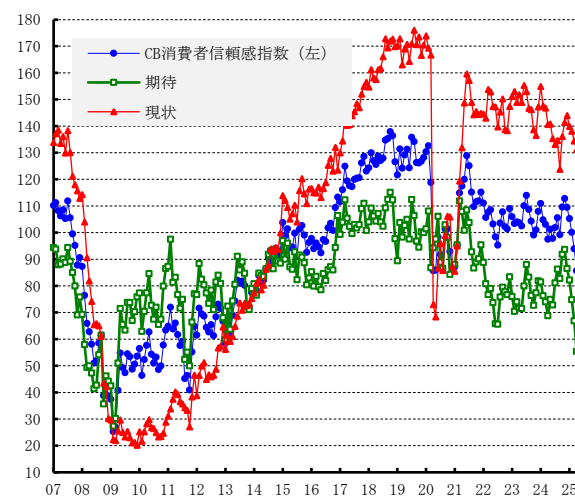
	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド	
		期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画			期待	現状
				充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅			
24/06	97.8	72.8	135.3	35.5	15.7	13.2	17.6	11.1	5.1	68.2	69.6	65.9
24/07	101.9	81.1	133.1	33.4	16.3	15.4	16.2	11.6	4.7	66.4	68.8	62.7
24/08	105.6	86.3	134.6	32.7	16.8	19.1	14.5	11.5	4.8	67.9	72.1	61.3
24/09	99.2	82.8	123.8	31.3	18.6	19.4	17.1	11.9	5.8	70.1	74.4	63.3
24/10	109.6	91.9	136.1	34.1	17.6	21.1	13.0	13.1	6.1	70.5	74.1	64.9
24/11	112.8	93.7	141.4	33.6	15.2	24.7	15.9	13.1	6.2	71.8	76.9	63.9
24/12	109.5	86.5	144.0	37.1	14.9	22.7	17.3	13.1	5.7	74.0	73.3	75.1
25/01	105.3	82.2	139.9	33.9	14.5	20.8	19.6	11.4	5.0	71.7	69.5	75.1
25/02	100.1	74.8	138.1	33.6	16.0	20.8	25.5	10.7	5.3	64.7	64.0	65.7
25/03	93.9	66.9	134.4	33.6	16.1	17.8	26.1	10.7	5.6	57.0	52.6	63.8
25/04	85.7	55.4	131.1	31.2	17.5	15.9	34.9	10.6	4.8	52.2	47.3	59.8
25/05	98.4	73.6	135.5	31.1	18.4	19.9	25.4	11.8	6.7	52.2	47.9	58.9
25/06	93.0	69.0	129.1	29.2	18.1	16.7	24.0	11.8	5.9	60.5	58.4	63.7

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B、ミガン大学

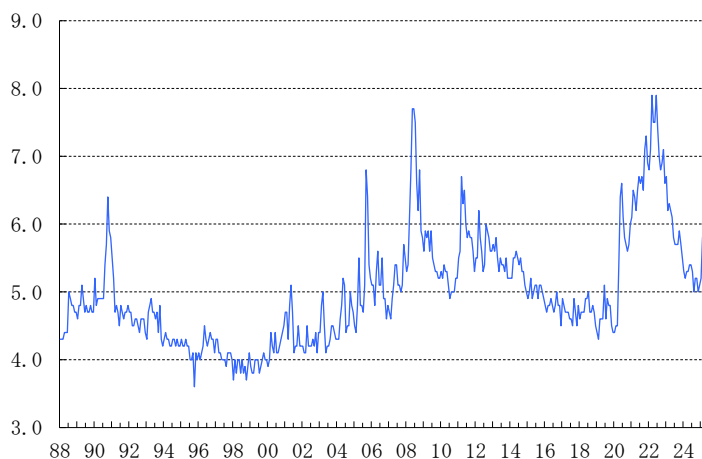
(図表) 消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B

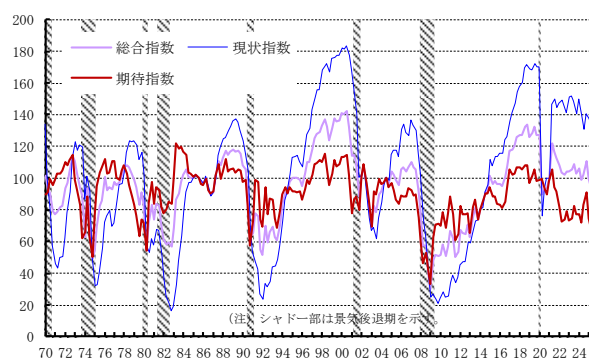
インフレに関しては、対中国関税率の大幅な引き下げによる物価押し上げ懸念の緩和によって、1年先のインフレ見通しが6.0%（前月6.4%）と低下した。ただし、水準は依然高く、インフレへの懸念は強いままと考えられる。

(%) 12ヵ月後のインフレ見通し

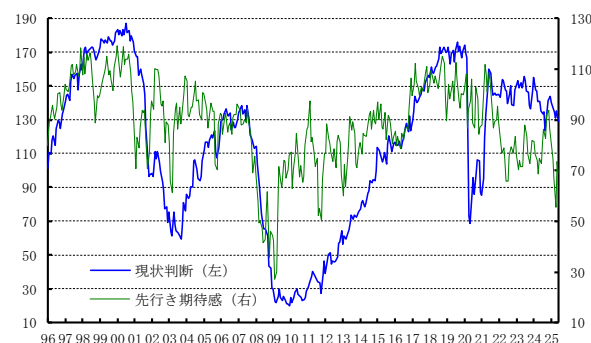


25年8月にかけて、C B消費者信頼感調査では、高い政策金利や引締まった信用状況、高い物価等が押し下げ要因となるものの、堅調な雇用情勢や名目所得の増加等が押し上げ要因となり、現状指数は横ばい推移すると見込まれる。一方、7月9日の相互関税上乗せの停止期限までに主要な貿易赤字国と通商合意する可能性が高いものの、対中国では関税の90日間の引き下げ措置の期限である8月12日までに通商合意できる可能性は低く、物価上昇や景気悪化への懸念の残存によって、期待指数の大幅な改善は期待できない。この結果、C B消費者信頼感指数は現状水準付近で停滞し、個人消費の緩やかな拡大の一因になると予想される。

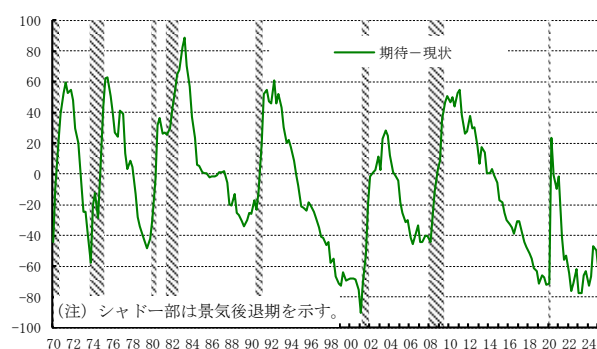
消費者信頼感指数の推移(四半期)



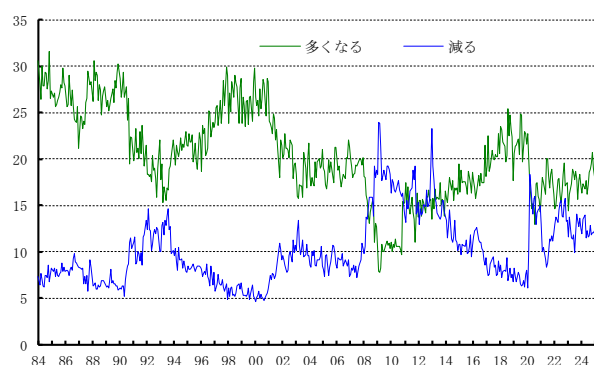
消費者信頼感指数の推移



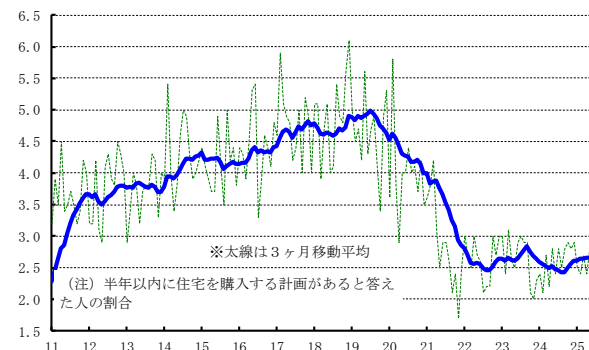
(期待指数－現状指数)の推移



(%) 6ヶ月後の収入見通し

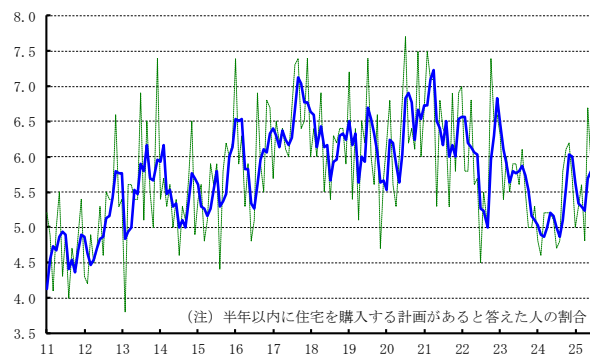


(%) 新車購入計画比率の推移



(出所) C B

(%) 住宅購入計画比率の推移



(出所) C B

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

